

## 2 五島肉用牛大学による離島の活性化

五島家畜保健衛生所

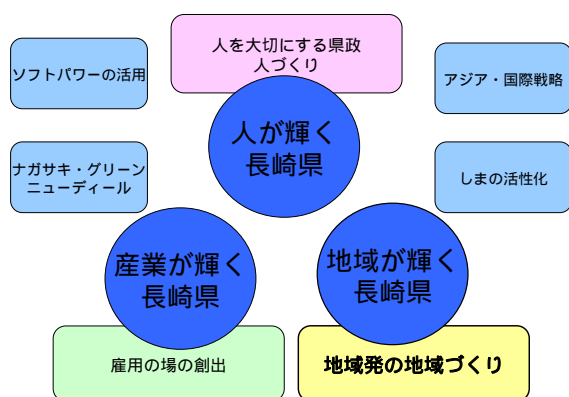
千木良 夏美・浦川 了・豊田 勇夫

### 1 はじめに

平成 23 年度から「長崎県総合計画」がスタートし、その政策のひとつである「地域発の地域づくり」の一環として「五島地域こぎ出せミーティング」を開催し、「五島肉用牛大学」（以下「大学」）を実施したのでその概要を報告する。

### 2 長崎県総合計画

本県では平成 23 年度より開始した「長崎県総合計画」において、「人が輝く・産業が輝く・地域が輝く長崎県」の 3 つの基本理念およびこれら 8 つのキーワードをもとに政策が展開されている（図 1）。キーワードの 1 つである「地域発の地域づくり」として地域が抱える課題を地域一体となって考え・取り組む「こぎ出せミーティング」が各地域で実施されている。



### 3 五島地域こぎ出せミーティング

平成 24 年 6 月 5 日に第 1 回五島地域こぎ出せミーティングが開催され、「肉用牛振興」について、当所を始めとする振興局、五島市等畜産

関係機関が参集し五島の肉用牛の課題として子牛の 1 日増体量（D・G）が低い、死亡事故が多い、分娩間隔が長い等の現状と課題があげられた（図 2）。

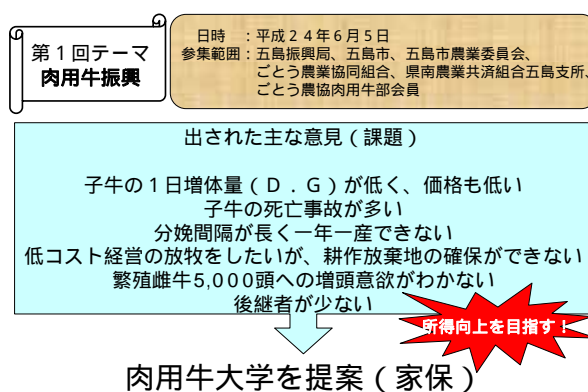


図 2 五島地域こぎ出せミーティング

### 4 五島肉用牛大学

肉用牛大学運営委員会として再度、畜産関係機関が参集し、大学の設置・運営に係る協議を行い、約 2 年間毎月 1 回開講することに決定した。また、課題に対する具体的な数値目標を設定した（図 3）。

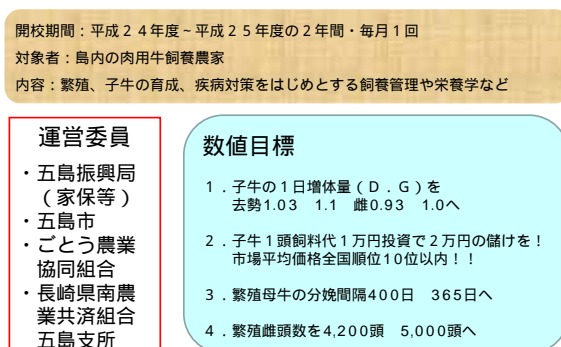


図 3 五島肉用牛大学運営委員会

(1) 「大学」運営委員会

講座を開講するにあたり、運営委員はチラシ等を作成・配布し肉用牛飼養農家へ周知、各講座終了後受講生へのアンケートを実施し、受講生の理解度を含め次回以降のカリキュラムへの一助とした(図 4)。



図 4 五島肉用牛大学

(2) 開講講座

平成 24 年 6 月から平成 26 年 3 月までの約 2 年間全 23 回において多岐にわたる分野の 44 講座が開講された(図 5)。講師は肉用牛大学運営委員を始め、必要に応じて島外の外部講師を依頼した。その中で当所は主に飼養管理技術および家畜衛生・疾病予防関係の講座を受け持った。



図 5 「五島肉用牛大学」開設講座

特に反響が大きかった講座として優良事例等の紹介が挙げられ、昨年度の「ヘルパー制度について」の講座後に管内においてもヘルパー組合が設立され、ますます地域の肉用牛振興が進

んでいる(写真 1)。



写真 1 講義の様子

5 結果

(1) 五島家畜市場成績

D・Gの推移は大学開校前後の平成 23 年度と平成 25 年度の平均 D・Gを比較すると去勢、雌ともに増加し、全体においても 0.98 から 0.99 へと推移した(図 6)。

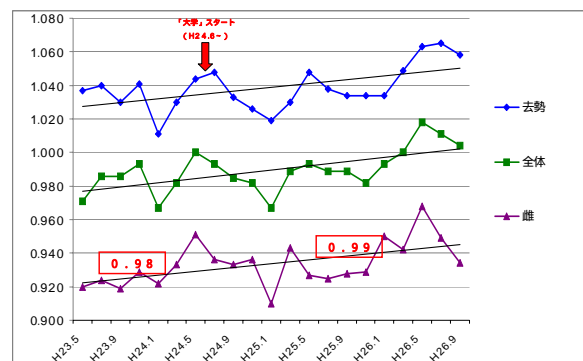


図 6 出荷子牛のD.G.の推移

市場取引価格は全国的な傾向に漏れなく価格の上昇が見られた。また、開校後の平成 25 年 7 月の家畜市場の平均取引価格では全国 5 位、平成 25 年度の去勢の市場平均価格では全国 11 位を収めるなど肥育農家から評価が高い子牛が生産されている(図 7)。

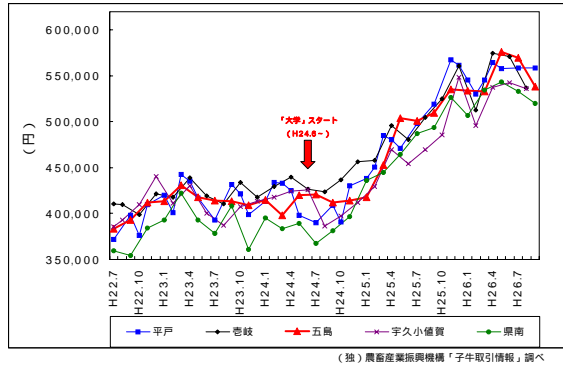


図 7 県内家畜市場価格の推移

(2) 子牛の病傷事故率

大学開校前後の平成 23 年度と平成 25 年度を比較すると、下痢症は 13%、肺炎は 57.2%および死亡事故は 8.6%減少した(図 8)。

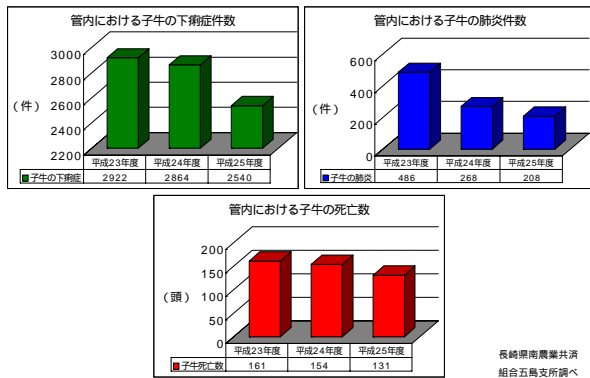


図 8 子牛の病傷事故率の推移

(3) 繁殖成績

初産月齢および分娩間隔ともに平成 24 年度、平成 25 年度成績は全国および県内の平均成績を上回っているが、校前後の大きな変化は見られなかった(表 1)。

表 1 繁殖成績

区分	初産月齢(月)		分娩間隔(日)	
	H24	H25	H24	H25
五島	24.6	24.7	396.6	396.9
長崎県	24.8	24.8	404.6	404.1
全国	25.7	25.7	415.6	416.4

(社) 全国和牛登録協会調べ

(4) 繁殖雌牛飼養農家戸数および頭数

飼養農家の高齢化や担い手不足からやや減少傾向にあるが、昨年度のヘルパー組合設立や今後のコントラクターによる省力化により大規模化や増頭を目指している(図 9)。

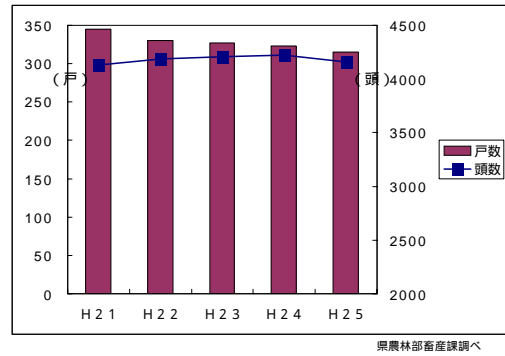


図 9 繁殖雌牛農家戸数および頭数の推移

6 受講農家への指導

地域全体の D・G の増加で市場の齟齬化を図るため、「大学」と並行し成績が伸び悩む農家 A、農家 B の重点指導を J A 等関係機関と実施した。

(1) 農家 A への指導

母牛 26 頭を飼養する繁殖農家。整理整頓がされず、また子牛が長期間母牛と同居しており繁殖成績および子牛の発育不良が問題となっていた(図 10)。

農家概要：黒毛和種 26 頭飼養・繁殖農家、労働力本人のみ

主な指導事項  
子牛の育成場所の確保、適正な飼料給与、飼養衛生管理基準遵守徹底

図 10 受講農家 A への指導

そこで、通常の飼養衛生管理指導に加え、子牛の育成場所の確保や適正な飼料給与等の指導を実施し、子牛の平均D・Gは0.90から0.94に増加した(図11)。

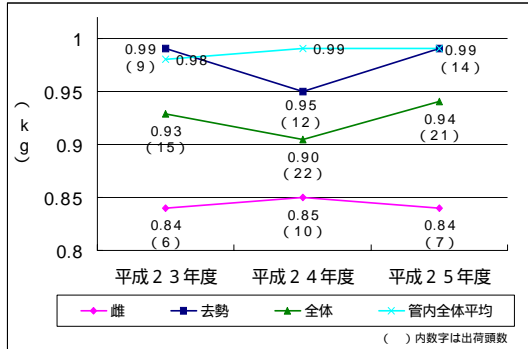
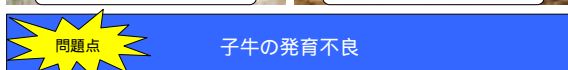


図 11 農家AのD・G推移

## (2) 農家Bへの指導

母牛28頭を飼養する繁殖農家。牛床の汚れが目立ち、牛房内で足を滑らせ関節疾患になるなど子牛の発育不良が問題となっていた(図12)。

農家概要：黒毛和種28頭飼養・繁殖農家、労働力本人のみ



主な指導事項

初乳摂取の確認、子牛の餌槽の増設、飼養衛生管理基準遵守

図 12 受講農家Bへの指導

そこで、通常の飼養衛生管理指導に加え、初乳摂取の確認や子牛の餌槽の増設等の指導を実施し、雌子牛の平均D・Gは0.83から0.90に増加、さらに出荷子牛も繁殖成績が向上したため前年度と比較し大幅に増加した(図13)。

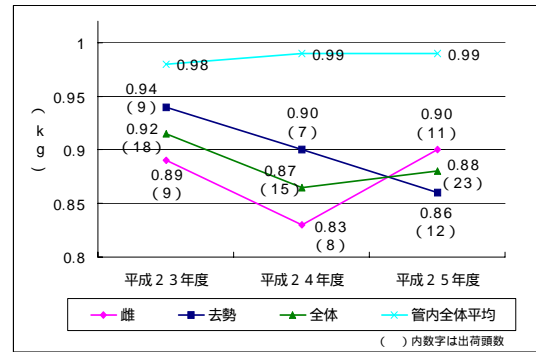


図 13 農家BのD・G推移

## 7 受講生のアンケート結果および意見

受講後のアンケート調査等により飼養管理の改善による子牛育成成績・繁殖成績の向上、継続開催の要望等があり、今年度も随時開催している。

## 8 まとめと考察

長崎県総合計画「こぎだせミーティング」により、地域活性化を目指しH24年度から2年間全23回44講座「五島肉用牛大学」を開催した。

大学開校により、市場出荷子牛のD・Gの増加、市場取引価格の上昇および飼養衛生管理の改善等による病傷事故率の低下の成果が認められた。

しかしながら、近年、繁殖繁殖雌牛頭数は減少傾向にあり、今後、コントラクター等を取り入れた大規模化による頭数の維持拡大が必要と思われた。

今後とも銘柄確立と消費拡大のための肥育牛経営、一貫経営の取り組みを検討・推進し肉用牛振興による五島地域の活性化を図りたい。